

大綱 2. 持続可能な協働のまちづくり

少子・高齢化が急速に進む中で、様々な地域課題が山積しています。しかし、行政だけで全ての課題を解決することは困難であり、市民との「協働」が不可欠になっています。

しかし、今後、市民公益活動を維持し、協働のまちづくりを続けるためには、担い手の確保は待ったなしの状況にあります。

そんな中、「協働」が重要、「担い手」対策に取り組むとの市長のお考えを、大変心強く感じています。

そこで、市民公益活動支援について何点かお尋ねします。

(1) 「市民活動支援に関するアンケート」結果について

市では、2009年、2013年に引き続き昨年（2016年）8月にアンケートを実施しました。アンケート結果から見えてきた市民活動団体が最も困っていること、また、今後の課題について、市のお考えをお聞かせください。

(2) 市民活動ステーションの機能強化について

市民活動支援の推進施策のひとつに、市民活動ステーションの機能強化が位置付けられています。

その市民活動ステーションは、次年度から3年間、(株)東京ドームファシリテーターズが新たに指定管理者となり、管理運営を担っていくことになりました。

しかし、我孫子市の市民活動を何も知らない市外の事業者が市民活動支援ができるのか、いまだに不安の声が渦巻いています。

そんな中、事業者は現状の良いところは踏襲しつつ、改善できる事業等は改善していく意向であると伺っていますが、どんなところを踏襲し、どんなところを改善していくのか、お聞かせください。

また、今後、事業者が市民活動支援をスムーズに行うため、また、これまでの市民活動の蓄積を活かすために、市民活動ネットワーク等との連携・協力は不可欠です。以前ご答弁のあった協議の場の設定はどのようになったのか、お聞かせください。

(3) 市民公益活動の担い手を増やすための取組みについて

ア. 平成28年度の取組みの成果と平成29年度の取組みについて

平成29年度の担い手を増やすための取組みとして、地域活動体験（インターンシッププログラム）やJOYボラの継続。市内の大学との連携。長寿大学等、既存の講座の活用等を上げています。

これらの取組みは、平成28年度と全く同じ取組みですが、はたして、これら

の取組みだけで担い手を増やすことができるのでしょうか。担い手対策の重要性や担い手問題に対する危機感が欠けているように感じられます。

そこで、平成 28 年度の取組みの成果と平成 29 年度の取組みが前年とほとんど同じ理由をお聞かせください。

また、市内の大学との連携や、長寿大学等既存の講座の活用等とありますが、どのように連携・活用していくのか、その具体策をお聞かせください。

イ. “地域活動はじめの一步講座”等の受講生の受け皿づくり

市民活動ネットワークでは、担い手対策は緊急課題だとして“地域活動はじめの一步講座”を行い、自ら市民公益活動の担い手づくりに取り組んでいます。平成 28 年度も「市民による観光振興の基礎講座」、「高齢者の生活支援の担い手を要請する講座」「防災～安全安心『近所』リーダー養成講座」「こども応援団養成講座」を開催しました。

受講生からは、「あのような活動を考えてみたい」、「担い手不足の中で頑張っておられることがよく分かった」等の感想が多く寄せられと伺っています。

講座を実施した法人では、これら地域活動に関心を高めた人への「次の一步講座」などのフォローも考えているそうですが、今後、重要なことは、担い手づくりの講座等を実施した後の受け皿づくりだと考えます。

以前、市民のチカラを必要としている市の事業等の情報提供やマッピングの提案をしましたが、担い手を増やす様々な取組みの受け皿をどのように創っていくのか、市民活動ネットワーク等と一緒に検討すべきだと思います。ご所見をお聞かせください。

(4) 職員の意識改革のための研修について

平成 29 年度の市民活動支援として、市民公益活動や協働のまちづくりについて職員の理解や知識の向上を図るため職員研修を実施し、内容も充実させると伺っていますが、これまでの研修内容と成果をお聞かせください。

また、今後どのように内容の充実を図るのか、お考えをお聞かせください。

(5) 自治会、まちづくり協議会等との連携促進について

協働のまちづくりのためには、地域の自治会やまちづくり協議会等との連携促進は不可欠です。市は、昨年実施した活動実態調査の意見を総合的に勘案し、自治会やまちづくり協議会と連携していきたいとしていますが、具体的にどのように連携促進していくのか、お考えをお聞かせください。